

総合南東北病院外傷センター整形外科専門研修プログラム

目次

1 部 総合南東北病院外傷センター整形外科専門研修プログラムの魅力

※年間予定表、週間予定表、連携病院一覧、学術活動

2 部 整形外科専門研修について

1. 整形外科専門研修の理念と使命

2. 整形外科専門研修後の成果

3. 整形外科専門研修の方法

3.1 基本方針

3.2 研修計画

3.3 研修およびプログラムの評価計画

3.4 専攻医の就業環境の整備機能

3.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

3.6 修了要件

4. 研修スケジュール

5. 専門研修プログラムを支える体制

6. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1 部 総合南東北病院外傷センター整形外科専門研修プログラムの魅力

総合南東北病院外傷センターでは、整形外科全般についての知識・技術のみならず、専門分野について、高い倫理観に基づいた深い思考能力と、正確な自己評価能力を養うことを目指しています。この理念を達成するために、専門研修プログラムとしては、以下の4点の修得を重要視しています。

① 豊富な知識

整形外科医師としてあらゆる運動器疾患・外傷に関する知識を系統的に理解し、さらに日々進歩する新しい知見を正確に評価し、吸収する。

② 思考能力

あらゆる運動器疾患・外傷に対する臨床的な問題点を見出して解決しようとする姿勢を持ち、その課題を論理的に思考する能力を身につける。

③ 倫理観

豊かな人間性と高い倫理観の元に、整形外科医師として愛情を持って患者と接し、国民の運動器の健全な発育、外傷治療における早期社会復帰、健康寿命の延伸に使命感を持って貢献する。

④ 正確な技術

豊富な症例数に基づいた研修により、運動器全般に関して的確な診断能力を身につけ、適切な保存療法、リハビリテーションを実践する。そして基本手技から最先端技術までを網羅した手術治療を正確に実践することで、運動器疾患・外傷に関する良質かつ安全な医療を提供する。

総合南東北病院外傷センターでは、運動器全般に関する研修はもちろんのこと、特に現在一番重要視されている救急医療としての外傷に対する研修が重点的に行えます。外傷はいままでので日常生活を一変させる大きな出来事であり、元の生活に戻れるように治療することが大変重要です。今まで整形外科の中にも多くの専門分野がありますが、外傷治療・骨折治療に関しては系統だった教育が十分されてこなかったのが現状です。総合南東北病院外傷センター整形外科専門研修プログラムでは他にはない、整形外科専門医のスキルのみならず、外傷のエキスパートへの道につながるプログラムが詰め込まれています。

コースは3つあります。①外傷スペシャルコース、②外傷マイクロサージャリーコース、③外傷・整形バランスコースです。

① 外傷スペシャルコース

外傷に特化したコースです。不十分な研修となりがちな外傷研修をメインにしたコースで、整形外科全般の研修のみならず、外傷・骨折治療の最前線に関わっていただきます。まず、1年目では総合南東北病院外傷センターにて、外傷一般について学びます。外傷・骨折治療を学ぶことで、他の運動器疾患の理解が深まります。特に多い大腿骨頸部骨折、足関節周囲骨折など下肢外傷をメインに、診断、治療、リハビリテーションなどの思考過程や評価方法など、単に覚えるのではなく、考え方のアプローチを徹底的に身につけます。2年目は6ヶ月間を済生会宇都宮病院整形外科にて特に上肢の疾患・外傷について学びます。荷重肢の下肢とは違った考え方、治療アプローチをここで学ぶことができます。残りの6ヶ月は、福島県立医科大学附属病院整形外科において、大学ならではの専門性の高い研修を受けることができます。11の専門領域(脊椎、骨軟部腫瘍、肩関節、スポーツ、手外科・再建、麻痺・末梢神経、股関節、膝関節、足の外科、リウマチ、小児整形)の診療と研究を行っており、専門的な診療と臨床研究に深く関わりを持つことができます。3年目は、福島県総合療育センターにおいて小児整形外科を3ヶ月学びます。現在小児疾患はセンター化されており、一般病院ではなかなか経験できないため、ここでしっかりと集中して小児疾患を学びます。残りの9ヶ月は総合南東北病院外傷センターにて、

外来診療を通じて診療所との連携や地域医療について学びます。また、整形外科と協力して脊椎疾患や、靭帯損傷などをメインとしたスポーツ外傷を学びます。4年目は、専門研修プログラムの仕上げとして、以前より連携のある高知県にある近森病院整形外科、または神奈川県の新百合ヶ丘総合病院外傷センターにて、3ヶ月間、内固定による骨折治療と外傷後リハビリテーションを重点的に学び、埼玉県川越市にある埼玉医科大学総合医療センターの高度救命救急センターにて、外傷チームの一員として3次救急医療を経験し、救命しなければならない様な重度外傷や脊髄損傷などについて学びます。残りの3ヶ月は、総合南東北病院外傷センターにて、高度専門研修として難治骨折の治療に関わります。外傷後の合併症として生じた変形治癒や偽関節、骨髄炎などの感染症、外傷後変形性関節症など、全国から紹介されてくる難治化した症例において、正確に病態を把握し、創外固定法や特殊な関節内骨切り術などあらゆる手法を駆使して治療を行う過程を学び理解します。

② 外傷マイクロサージャリーコース

外傷に特化したコースですが、中でも重度四肢外傷におけるマイクロサージャリーの研修に比重を置いたコースです。2年間関連病院である新百合ヶ丘病院外傷センターにおいて骨折の研修のみならず、マイクロサージャリーの訓練を受けてもらいます。マイクロサージャリーを得意とする医師が3名おり、重度四肢外傷の軟部再建も行える体制を整えております。

③ 外傷・整形バランスコース

このコースは、不十分な研修となりがちな外傷研修をしっかりと行うとともに、整形外科一般の研修もまんべんなく行うコースです。専門分野を多く持つ帝京大学病院整形外科と連携し、各専門分野の深い知識と経験を元に研修を積み重ねていきます。まず、1年目は帝京大学病院整形外科で、整形外科とは何かということを様々な専門分野をまわりながら学びます。2年目は地域の関連病院

で地域医療・リハビリなどを学びます。3年目は総合南東北病院で外傷の基礎を学びます。4年目は大学でさらに各分野の専門的な研修を行い、研究や学会発表なども行っていきます。

どのコースに進んでも、この約4年間の専門研修プログラムを終えることで、整形外科全般の知識・技量を身につけるだけでなく、深い洞察力と柔軟な思考力、強力な実行力を身につけ、今後の外傷治療を担う一員として大きく一步を踏み出すことができるでしょう。一緒に研修できることを楽しみにしております。

【総合南東北病院外傷センター専門研修 年間取得単位】

①外傷スペシャルコース

プログラム	1年目	2年目	3年目	4年目	修了時
研修施設	総合南東北病院 外傷センター	済生会 宇都宮病院	福島県総合 療育センター	近森病院 or 新百合ヶ丘総合病院	
		福島県立医科 大学附属病院	総合南東北病院 外傷センター	埼玉医科大学 総合医療センター	
				総合南東北病院 外傷センター	
1:脊椎・脊髄 (6単位)			4	2	6
2:上肢・手 (6単位)		6			6
3:下肢 (6単位)	6				6
4:外傷 (6単位)	3		2	1	6
5:リウマチ (3単位)		3			3
6:スポーツ (3単位)		1	2		3
7:小児 (2単位)			2		2
8:腫瘍 (2単位)		2			2
9:リハビリ (3単位)				3	3
10:地域医療 (3単位)	3				3
11:流動単位 (5単位)			2	3	5
	12	12	12	9	45

【総合南東北病院外傷センター専門研修 年間取得単位】

②外傷マイクロサージャリーコース

プログラム	1年目	2年目	3年目	4年目	修了時
研修施設	新百合ヶ丘 総合病院	福島県立医科 大学附属病院	総合南東北病院 外傷センター	新百合ヶ丘 総合病院	
		福島県総合 療育センター			
		総合南東北病院 外傷センター			
1:脊椎・脊髄 (6単位)		2	4		6
2:上肢・手 (6単位)	3			3	6
3:下肢 (6単位)	1		4	1	6
4:外傷 (6単位)	2		3	1	6
5:リウマチ (3単位)		3			3
6:スポーツ (3単位)	2			1	3
7:小児 (2単位)		2			2
8:腫瘍 (2単位)		1	1		2
9:リハビリ (3単位)	2			1	3
10:地域医療 (3単位)		3			3
11:流動単位 (5単位)	2	1		2	5
	12	12	12	9	45

【総合南東北病院外傷センター専門研修 年間取得単位】

③外傷・整形バランスコース

プログラム	1年目	2年目	3年目	4年目	修了時
研修施設	帝京大学医学部 附属病院	※	総合南東北病院 外傷センター	帝京大学医学部 附属病院	
1:脊椎・脊髄 (6単位)	3			3	6
2:上肢・手 (6単位)	2	2	2		6
3:下肢 (6単位)		2	4		6
4:外傷 (6単位)		1	2	3	6
5:リウマチ (3単位)	3				3
6:スポーツ (3単位)				3	3
7:小児 (2単位)	2				2
8:腫瘍 (2単位)	2				2
9:リハビリ (3単位)		3			3
10:地域医療 (3単位)			3		3
11:流動単位 (5単位)		4	1		5
	12	12	12	9	45

※ 帝京大学医学部附属溝口病院、帝京大学ちば総合医療センター、上尾中央総合病院、東川口病院、三郷中央総合病院、大野中央病院、津田沼中央総合病院、康正会病院、深谷中央病院、嶋崎病院、小山整形外科内科、吉川中央総合病院、三木病院、老年病研究所附属病院、綾瀬厚生病院、伊奈病院、岩井整形外科内科病院、原整形外科病院、横浜労災病院のうちいずれか

【総合南東北病院外傷センター 週間予定表】

	月	火	水	木	金	土
午前	術前術後 カンファ	外来	手術	外来	外来	病棟業務
	総回診	病棟業務		病棟業務		
午後	手術	手術	手術	手術	手術	
			病棟業務		病棟業務	

※週 1 回当直業務、月 1 回当直業務あり

【総合南東北病院外傷センター専門研修プログラム 連携病院一覧】

① 外傷スペシャルコース ② 外傷マイクロサージャリーコース

	研修施設	研修可能 領域	指導医数	新患数	手術数
基幹施設	総合南東北病院 外傷センター	1, 2, 3, 4, 6, 9, 10	7	2166	675
連携施設	福島県立医科大学 附属病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	11	1424	928
連携施設	福島県総合療育 センター	7, 9, 10	1	220	51
	埼玉医科大学 総合医療センター	1, 4, 10	11	3635	1877
	近森病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9	6	4833	1815
	済生会宇都宮病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 9, 10	4	1940	1168
	新百合ヶ丘総合病院	2, 3, 4, 7, 9	5	※	※

※新設のため過去データなし

③ 外傷・整形バランスコース

	研修施設	研修可能 領域	指導医数	新患者数	手術数
基幹施設	総合南東北病院 外傷センター	1, 2, 3, 4, 6, 9, 10	7	2166	675
連携施設	帝京大学医学部附属 病院	1. 2. 3. 4. 5. 6 . 7. 8	17	3566	2111
連携施設	帝京大学医学部附属 溝口病院	1. 2. 3. 4. 5. 6 . 7. 8	4	3031	554
連携施設	帝京大学ちば総合医 療センター	1. 2. 3. 4. 6	4	1476	390
連携施設	上尾中央総合病院	1. 2. 3. 4. 5. 6 . 7. 8	6	4456	1177
連携施設	東川口病院	2. 3. 4	2	7671	309
連携施設	三郷中央総合病院	1. 2. 3. 4. 5. 6 . 7	3	1534	818
連携施設	医療法人社団 嵐川 大野中央病院	1. 2. 3. 4. 5. 6 . 8	3	2642	396
連携施設	津田沼中央総合病院	2. 3. 4. 7	2	1566	431
連携施設	康正会病院	1. 2. 3. 4. 5	2	2318	381
連携施設	医療法人 葵 深谷中 央病院	1. 3. 4. 5	2	4023	407
連携施設	医療法人ここの実会 嶋崎病院	1. 2. 3. 4. 6. 7 . 8	5	5860	1197
連携施設	小山整形外科内科	1. 2. 3. 4. 5. 6 . 7	3	6138	619
連携施設	吉川中央総合病院	2. 3. 6	2	700	342
連携施設	医療法人 天楽会 三 木病院	3	1	1602	179
連携施設	公益財団法人老年病 研究所附属病院	1. 2. 3. 4. 5. 6 . 7	3	2078	345
連携施設	医療法人社団柏綾会 綾瀬厚生病院	3. 5	1	636	271
連携施設	医療法人社団愛友会 伊奈病院	1. 2. 3. 4. 5. 6 . 7. 8	5	1656	940
連携施設	岩井整形外科内科病 院	1	1	4756	1651
連携施設	医療法人社団雙和会 原整形外科病院	2. 3. 4. 5. 6. 7	2	3103	339
連携施設連 携施設	横浜労災病院	1. 2. 3. 4. 5. 6 . 7. 8	6	3276	1993

【総合南東北病院外傷センター専門研修 年間予定表】

	1年目				2年目				3年目				4年目		
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12
1	A	A	A	A	B	B	C	C	D	A	A	A	F	E/G	A
2	A	A	A	A	C	C	B	B	A	A	A	D	E/G	F	A
3	A	A	A	A	B	B	C	C	A	D	A	A	F	E/G	A
4	A	A	A	A	C	C	B	B	A	A	D	A	E/G	F	A
5	G	G	G	G	B	B	D	A	A	A	A	A	G	G	G
6	H	H	H	H	I	I	I	I	A	A	A	A	H	H	H

A: 総合南東北病院外傷センター、B: 福島県立医科大学附属病院整形外科、C: 済生会宇都宮病院整形外科、D: 福島県総合療育センター、E: 近森病院整形外科、F: 埼玉医科大学総合医療センター、G: 新百合ヶ丘病院外傷センター

H: 帝京大学医学部附属病院、

I: 帝京大学医学部附属溝口病院、帝京大学ちば総合医療センター、上尾中央総合病院、東川口病院、三郷中央総合病院、大野中央病院、津田沼中央総合病院、康正会病院、深谷中央病院、嶋崎病院、小山整形外科内科、吉川中央総合病院、三木病院、老年病研究所附属病院、綾瀬厚生病院、伊奈病院、岩井整形外科内科病院、原整形外科病院、横浜労災病院のうちいずれか

【総合南東北病院外傷センター 学術活動】

福島県立医科大学外傷学講座（寄附講座）に所属している指導医がたくさんおり、多くの学会で活発に発表しています。

日本整形外科学会

日本骨折治療学会

日本創外固定・骨延長学会

日本骨関節感染症学会

日本足の外科学会

日本外傷学会

日本骨粗鬆症学会

日本手外科学会

日本マイクロサージャリー学会

日本肘関節学会

日本運動器再建・イリザロフ法研究会

日本超音波骨折治療研究会

日本脆弱性骨折ネットワーク

International Society for Fracture Repair (ISFR)

International Limb Lengthening and Reconstruction Society (ILLRS)

American Association of Orthopaedic Surgeons (AAOS)

Orthopaedic Research Society (ORS)

Fragility Fracture Network (FFN)

セミナーの主催、共催も行っております。

裏磐梯イリザロフ法セミナー（福島）

黒潮イリザロフ法セミナー（高知）

2部 整形外科専門研修について

1. 整形外科専門研修の理念と使命

整形外科専門医は、国民の皆様に運動器疾患・外傷に対する質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、日本整形外科学会に所属する専攻医に対して医師として必要な、豊富な知識、思考能力、倫理観、正確な技術臨床能力および運動器疾患全般に関する基本的・応用的・実践能力を教育し、国民の運動器の健全な発育、外傷治療における早期社会復帰、健康寿命の延伸に使命感を持って貢献することを理念とします。

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。

整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療など診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、地域住民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。

福島県の医師数は、二次医療圏別で見ると県北医療圏以外は全国平均を大きく下回っています。これらの医師不足地域では、高齢化人口比率の高い地域であり、地域医療で整形外科の果たす役割が非常に重要となります。このプログラムでは、地域医療を経験しながら、同時に地域医療にも貢献でき、幅広い知識と視野を持った整形外科医となることができます。

2. 整形外科専門研修後の成果

整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、地域医療を中心とした研修によって、専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）。
- 3) 診療記録の適確な記載ができること。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。

- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること。
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと。
- 8) 地域医療の重要性を十分に理解し、地域住民の健康維持向上に貢献すること。

3. 整形外科専門研修の方法

参照資料:

整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料（日本整形外科学会 HP）

<http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html>

3.1 基本方針

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、総合南東北病院外傷センターおよび連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の具体的な年度毎の達成目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料1「専門知識習得の年次毎の到達目標」及び資料2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科学会会員マイページを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の12月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第三者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

3.2 研修計画

整形外科の研修で修得すべき知識・技能・態度は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性を対象とし、専門分野も解剖学的部位別に加え、腫瘍、リウマチ、スポーツ、リハビリ等多岐に渡ります。この様に幅広い研修内容

を修練するにあたっては、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料6「研修方略」に従って1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9か月間で45単位を修得する修練プロセスで研修します。

①専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表を参照し、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない知識があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

②専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し技能能習得状況を6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表（図1）を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

③経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を総合南東北病院外傷センター及び連携施設で偏りがないように経験することを目標とします。経験の不足している分野については、その後の研修施設において経験可能なように配慮します。

④プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

⑤リサーチマインドの養成計画

総合南東北病院外傷センターや福島県立医科大学整形外科が主催する講演会に参加することにより、他大学整形外科教授などからの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。また、福島県立医科大学が主催する臨床研究デザイン塾に参加（年1回）することにより、臨床研究に対する考え方を習得することができます。

⑥学術活動に関する具体的目標とその指導體制（専攻医1人あたりの学会発表、論文等）

専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

⑦コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得させます。

総合南東北病院外傷センターおよび各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧地域医療に関する研修計画

整形外科専門医制度は、地域の整形外科医療を守ることを念頭に置いています。地域医療研修病院における外来診療および二次救急医療に従事し、主として一般整形外科外傷の診断、治療、手術に関する研修を行います。また周囲医療機関との病病連携、病診連携を経験・習得します。

⑨サブスペシャリティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムは福島県立医科大学整形外科専門研修プログラムとも連携しているために、これらサブスペシャリティ領域の研修施設、スポーツ整形外科や関節外科手術に多くの実績のある施設も含まれています。また本研修プログラムでは、特に外傷をサブスペシャリティとしたい専攻医に適応した数少ないプログラムであり、整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャルティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャルティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

3.3 研修およびプログラムの評価計画

①専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6ヵ月に1回行い、(9月末および3月末) 専門研修プログラム管理委員会に提出します。

他職種も含めた総合南東北病院外傷センターおよび各研修施設での研修評価(態度も含めた総評)を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

②専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

総合南東北病院外傷センターに専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。

定期委員会を開催し、専攻研修4年目の12月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。

専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、各研修連携施設および専攻医に報告します。活動報告および研修プログラムは、ホームページで公開します。

③プログラムとしてのFD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

3.4 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

3.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

3.6 修了要件

- ①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
 - ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
 - ③臨床医として十分な適性が備わっていること
 - ④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
 - ⑤1回以上の学会発表、また筆頭著者として1編以上の論文があること。
- 以上①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修4年目の12月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

4. 研修スケジュール

本プログラムの連携施設は6施設（総合南東北病院外傷センター、福島県立医科大学附属病院、福島県総合療育センター、埼玉医科大学総合医療センター、近森病院、済生会宇都宮病院）です。それぞれの施設の研修可能分野、指導医数、研修コースの具体例（ローテーション例と各研修コースでの単位取得計画）、および診療実績は前述の通りです。

整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい。

5. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

Ⅱ型基幹施設である総合南東北病院外傷センターにおいては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いて双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います。上記目的達成のために総合南東北病院外傷センターに専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。整形外科専門研修プログラム群には、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置きます。

② Ⅱ型基幹施設の役割

Ⅱ型基幹施設である総合南東北病院外傷センターは専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および専門研修連携施設を統括します。

総合南東北病院外傷センターは研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、整形外科専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④ プログラム管理委員会の役割と権限

1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。

2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。

- 3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。
- 4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。
- 5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。
- 6) 総合南東北病院外傷センターは連携施設とともに研修施設群を形成します。総合南東北病院外傷センターに置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

- 1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医
- 2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文3編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

- 1) 専門研修基幹施設である総合南東北病院外傷センターにおける研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
- 2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥労働環境、労働安全、勤務条件

総合南東北病院外傷センターや各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・施設の給与体系を明示します。

6. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

【専攻医受入人数】 各学年 5 名 合計 20 名

【応募方法】

応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

(<http://resident.minamitohoku.or.jp/senmon/index.html>)

必要書類

- ①プログラム応募申請書
- ②履歴書
- ③医師免許証（コピー）
- ④医師臨床研修終了登録証（コピー）または臨床研修終了見込書
- ⑤健康診断書

【応募期間】

応募期間は9月1日から11月末日の予定です。原則として12月初旬に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。

【問い合わせ先】

〒 963-8563

郡山市八山田七丁目 115 番地

総合南東北病院 外傷センター （担当：加藤成隆）

電話：024-934-5457 FAX：024-934-5459

E-mail：kensyu@mt.strins.or.jp

URL：http://www.minamitohoku.or.jp/

病院見学や説明会は随時受け付けております。お気軽にお声掛け下さい。